

学校名 行田市立行田中学校
所在地 行田市佐間3-3-8
電話 048-556-9196

1 本校の概要

本校は『学べ 鍛えろ 夢を持って』を学校教育目標とし、学校、保護者、地域の絆の中で、学び合い、認め合い、高め合いながら主体的に活動し、一人一人が成長できる学校づくりに取り組んでいる。今年度は、行田市立図書館から学校図書館支援員が派遣され図書整備などを行うほか、図書活動推進教員の2人が月2回、読書活動の支援を行っている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・司書教諭・学校司書などを活用した取組
- ・家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

ア ビブリオバトル 市立図書館と推進教員との連携

行田市立図書館と連携し図書委員会内で、ビブリオバトルを年2回行った。また、第2学年の国語の授業内でビブリオバトルを計画した。司書教諭と推進教員が主体となり、外部講師として市立図書館の図書館支援員を招き、連携をしながら各クラスで授業を行った。その後行われた市立図書館主催のビブリオバトルのイベントに生徒が参加するなど、相乗効果があった。



イ 読書週間に合わせた行中読書週間の実施

行中読書週間を設定し、「校内読書マラソン」「クラスの読書の木」「先生方へのおすすめ本のインタビュー」を行った。「校内読書マラソン」は1か月に読むページ数を個人目標に設定し、ひと言感想を加え読書記録を付けていく。最後には読んだ総ページ数を集約し、上位入賞者を図書委員長が表彰している。「クラスの読書の木」の作成では、各クラスの廊下には、読書週間前には紅葉の型紙に「自分のおすすめの本紹介」、読書週間後にはイチョウの型紙に「読書マラソンで読んだ本の感想」を書き込んで掲示した。生徒たちは、掲示物前

で立ち止まり、仲間がどんな本を読んでいるかを興味深く見ていた。「先生方へのおすすめ本のインタビュー」では校長先生をはじめ、学年の先生に図書委員が取材し、記事を図書だよりに掲載している。取材、撮影、パソコンを使った記事作りを生徒主体で行っている。



ウ ボランティアによる読み聞かせ、紙芝居の制作

10分間朝読書を実施するほか、月1回地域のボランティアによる読み聞かせを行った。また地域の行事『浮き城まつり』でだんべ踊り大賞をきっかけとした保護者、地域、美術部のコラボレーションで紙芝居を制作し、読み聞かせで紙芝居を完成披露した。

エ 学校図書館内の特設コーナーの設置

特設コーナー(部活、教科書教材関連、受験勉強など)を設置している。また読書マラソンに連携し「行中図書館おすすめ50冊」を示し、図書館司書教諭、図書推進教員、市立図書館員が連携して行中生に読んでもらいたい本をジャンル別に選出し、普段読まないジャンルも手に取ってもらうようにした。



これらの取組や図書の紹介を司書教諭が図書館通信にて月1回発信している。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

学校図書館と市立図書館がつながりをもったことで、より専門的な委員会活動や授業において充実した活動を行うことができた。

(2) 課題

朝読書や読書マラソンで読む本は個人購入の本が多く、学校図書館の利用率につながっていないため、各取組を図書の貸出と関連付けをする必要がある。

(3) おわりに

読書活動の推進のため、来年度は市立図書館や地域との連携だけでなく、学校図書館が栄養教諭と連携して、小説や絵本の中に出てくる料理を給食に出せるかどうかを検討している。